

玉蘭作  
貞秀画



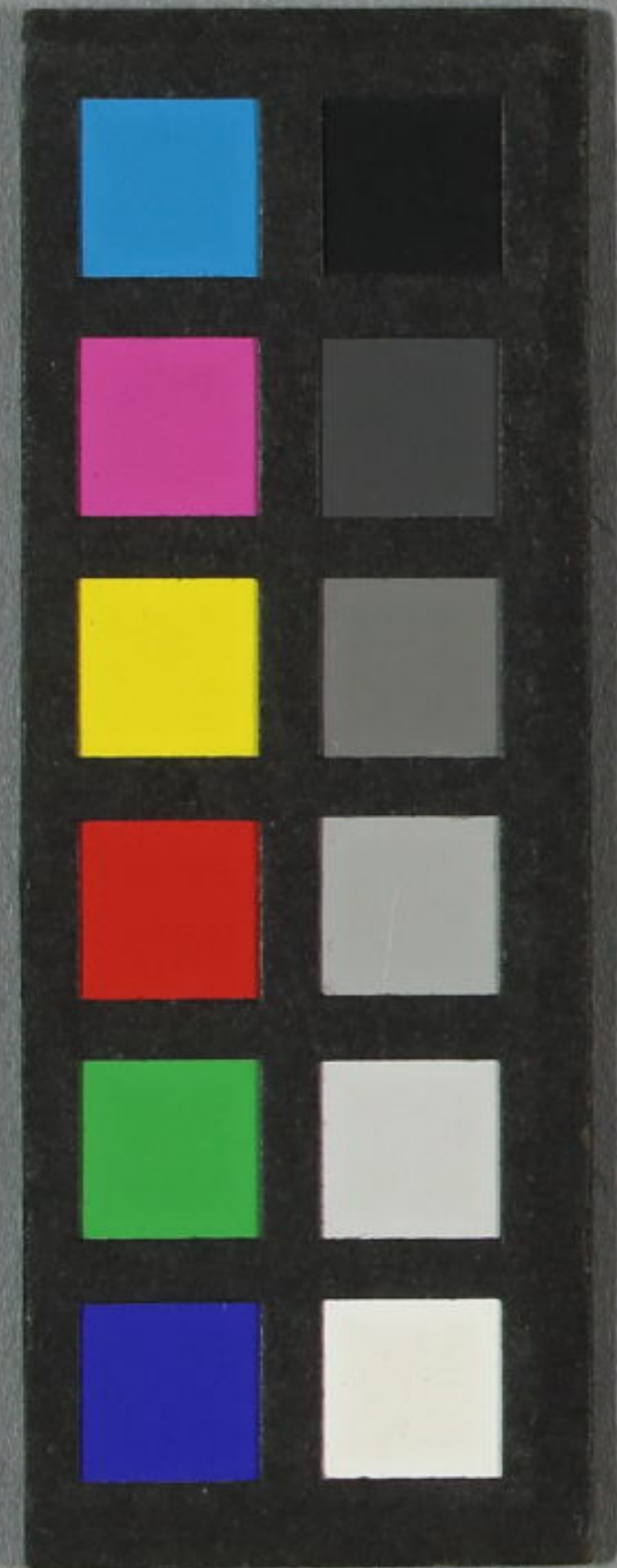
弘化五  
也  
二  
三

弘化五戊申  
孟春新板

松壽堂上梓

一の巻

~13  
3913  
2





上の巻

雲雀山蓮糸織

二編

戊申春新刻



Handwritten text, possibly a signature or date, in the upper right corner of the right page.

Handwritten text, possibly a signature or date, in the lower right corner of the right page.

13  
3913



東都西國吉川町  
大黒屋平吉板  
第二編上の巻

中將姫代記

雲雀山蓮糸織

玉蘭齋作  
歌川貞秀画

春雨のほそぐお鶯は初音楽ちよと  
口切朝茶の湯とやうの親父さん持の  
お肉羹もまけぬ氣で子供をほつめ新作の  
中々勸善懲惡のそとを繪とて耳学問  
目立光りもなかく。命をのぞ。節分終  
夏と雨多しひまり。額よ四海の浪をよせ。喰糶の  
梅子山負ぬ志を搦栗は見る斗り祝  
袋を代器とて赤木み壽をのぞ種本の趣  
向をグット氣をうて。年々も新玉を目  
出度迎たすやと。序よりあつた

弘化五戊申青陽

玉蘭齋識

ハハハ



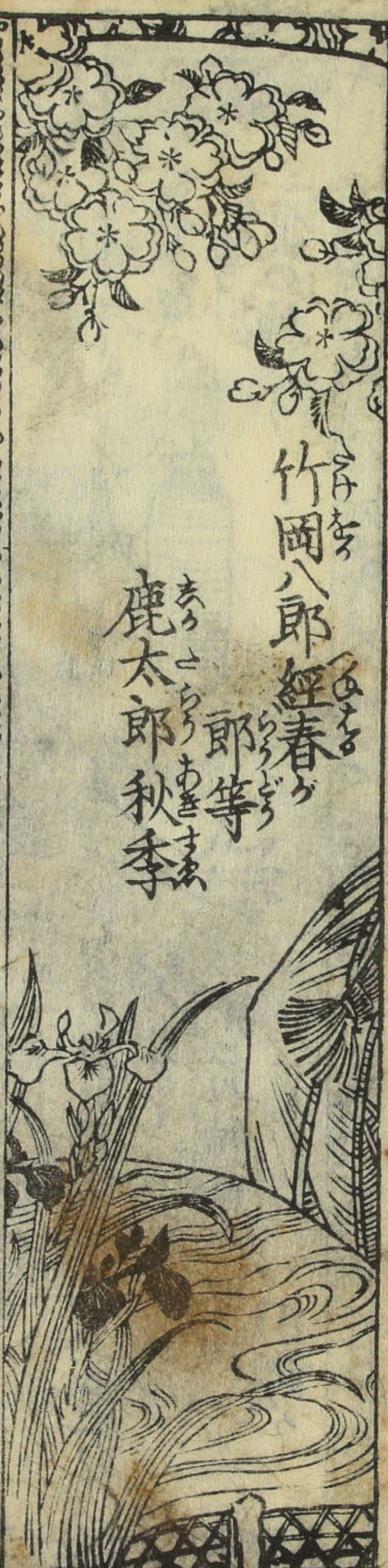


ひかりの  
雲雀山の  
奥へ入て  
姫お仕  
忠義貞女の  
名をあづ

竹岡十郎経義の妻  
白萩



あざも  
阿佐美の仕女  
紅色



しんがきん

市町小出て人志を  
 悪を治し善をたもひて  
 よく人界の道を立後  
 又忠義孝心を顯し  
 その名高し



雲雀山の奥に居て  
 たくましく  
 姫母の仕立  
 忠孝をあらはせ  
 比丘  
 関善



乞食千松

此人はこれ巻中  
 出で又第  
 三編とつき  
 ちぢりを  
 一笑の種なり



性篤直小と慈悲  
 ちぢ物小より少く意氣地あり  
 則これ神佛の守護  
 目前

庄屋  
 かん作













これらのあまのこどもは  
 げんやうにやうやくの  
 あんのかつやくの  
 下うけにやうやくの  
 あふげんやうやくの  
 きてあるまかみあふひけん  
 人の甲あまのこども

笛  
 あり



鹿  
 あり

鹿  
 あり

あり



しんせき

九

松壽堂藏板略目録

弘化大雜書万々曆

大本一冊

加目位算早割塵劫記

全一冊

画本手習百人一首

蕙齋先生画圖  
全一冊

拳獨稽古初心佈

中本一冊

茶番早合点

中本一冊

玉蘭齋作



五雲亭貞秀画



Handwritten text in cursive script, likely a preface or commentary related to the illustration or the book's content.

Additional handwritten text in cursive script, possibly a signature or further commentary.



下の巻

玉蘭齋作  
歌川貞秀画

東都  
西國  
大





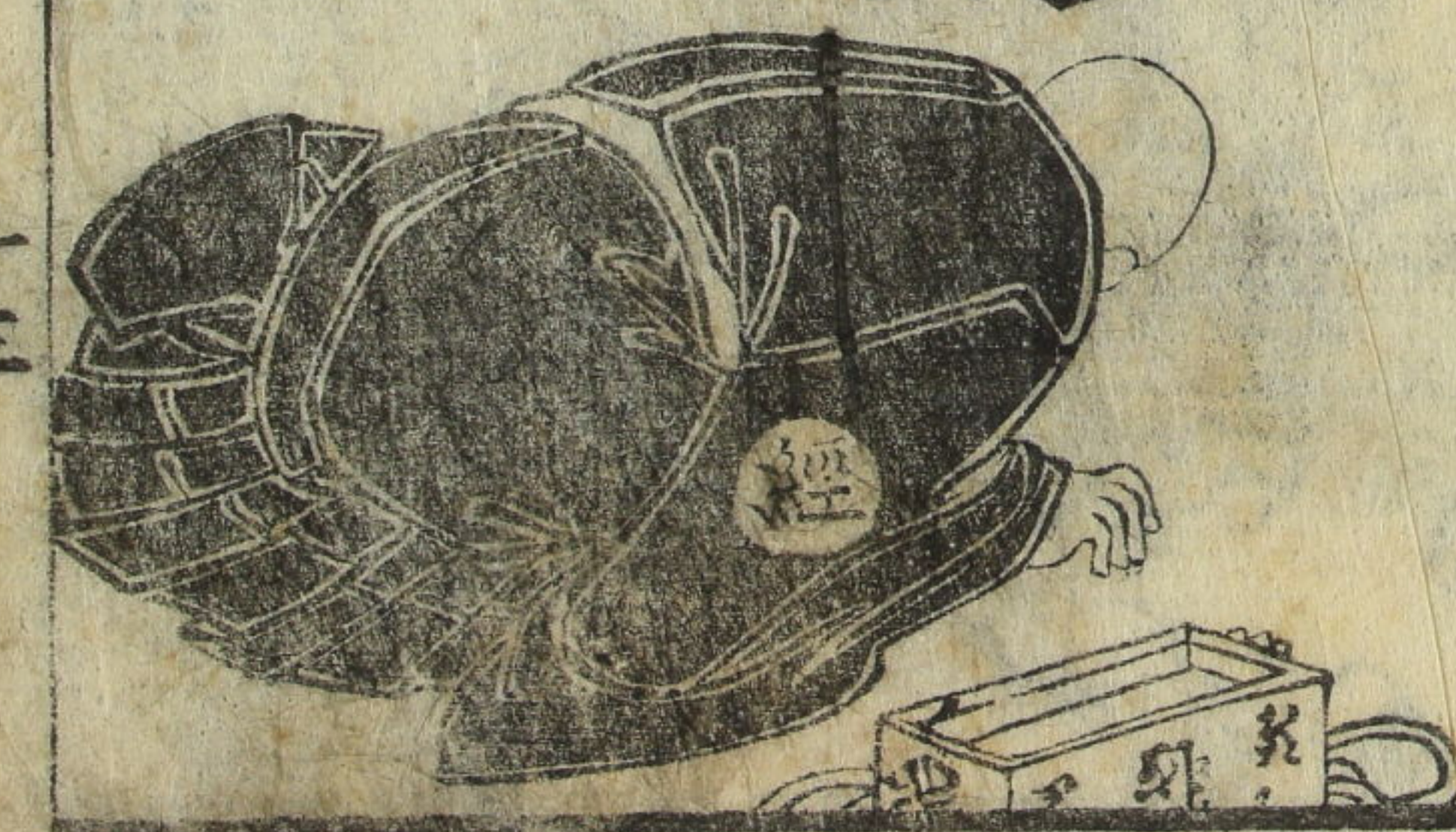




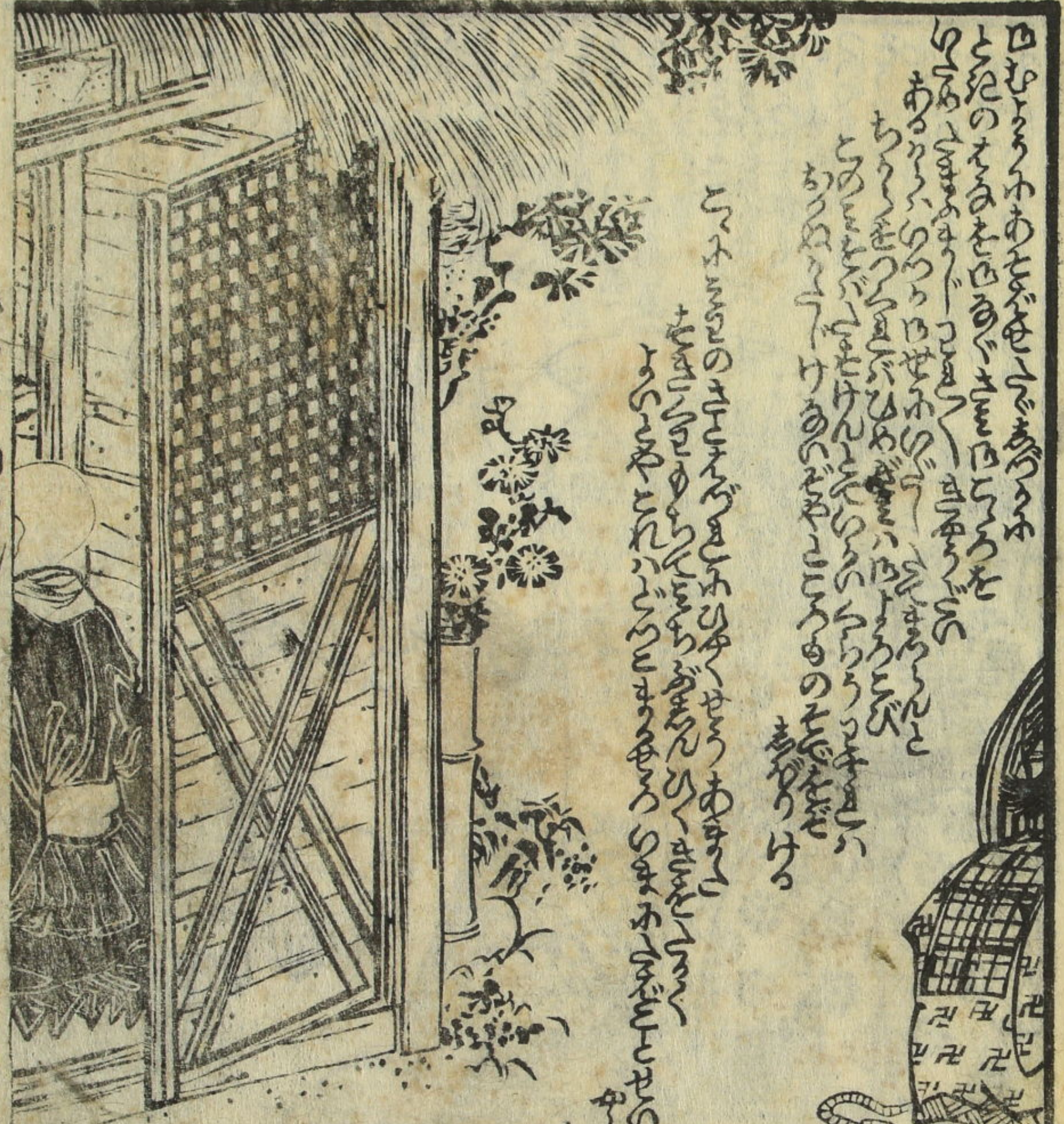
まゝにあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ



まゝにあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ  
てまゝあらまをともあひてひざり申へてしるひつ



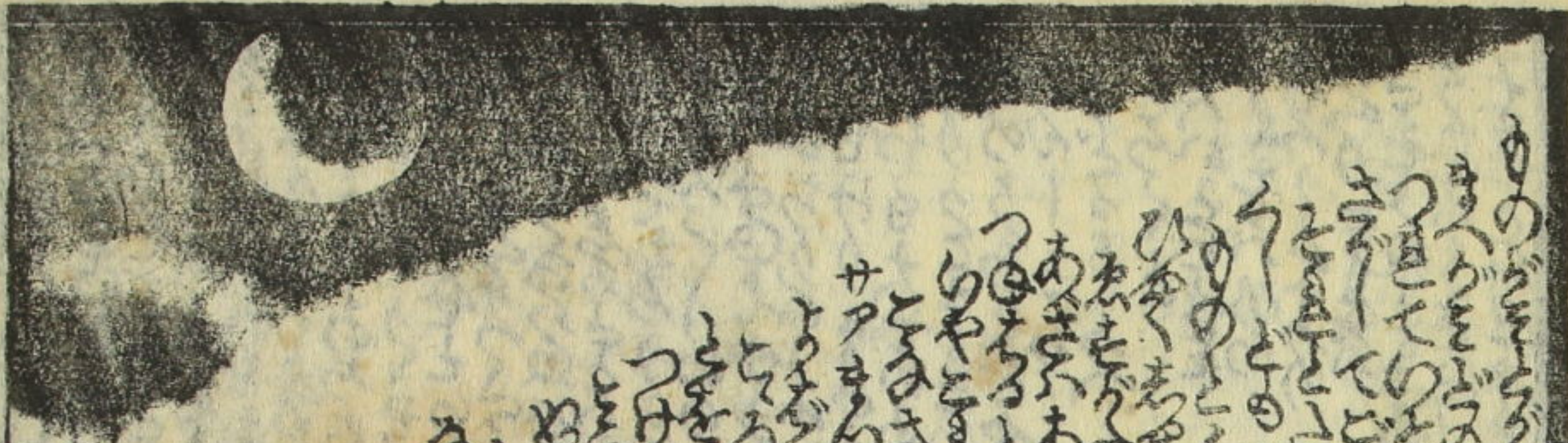
Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page, below the illustration.







Handwritten text in a cursive style, likely a poem or a scene description, located in the upper right quadrant of the left page.



Vertical text on the left margin of the left page.

Small vertical text at the bottom left of the left page.

Handwritten text in a cursive style, likely a poem or a scene description, located in the upper left quadrant of the right page.



Vertical text on the right margin of the right page.





月夜に馬を乗せし女  
 花の衣を着て  
 馬の背に坐りて  
 杖を手にし  
 月影を照らす  
 女は静かに  
 馬を導き  
 行く所へ  
 月影は  
 女を照らす



月夜に馬を乗せし女  
 花の衣を着て  
 馬の背に坐りて  
 杖を手にし  
 月影を照らす  
 女は静かに  
 馬を導き  
 行く所へ  
 月影は  
 女を照らす

月夜に馬を乗せし女



目もくひりぞ  
 サアウラと  
 目もくひりぞ  
 サアウラと

ちやうど  
 ちやうど  
 ちやうど  
 ちやうど

ちやうど  
 ちやうど

ちやうど  
 ちやうど  
 ちやうど  
 ちやうど



ちやうど  
 ちやうど

ちやうど









所ノ子